

1. 略歴

1979年 9月	国際基督教大学 教養学部 人文科学科 入学
1984年 3月	国際基督教大学 教養学部 人文科学科 卒業
1984年 4月	東京大学大学院 総合文化研究科 比較文学比較文化専攻 修士課程入学
1987年 3月	東京大学大学院 総合文化研究科 比較文学比較文化専攻 修士課程修了
1987年 4月	東京大学大学院 総合文化研究科 比較文学比較文化専攻 博士課程入学
1990年 3月	東京大学大学院 総合文化研究科 比較文学比較文化専攻 博士課程単位 取得満期退学
1990年 4月	東邦大学薬学部 専任講師
1992年 4月	中央大学法学部 専任講師
1993年 4月	中央大学法学部 助教授
1998年 4月	中央大学法学部 教授
2014年 4月	上智大学文学部英文学科 教授
2016年 3月	東京大学大学院 総合文化研究科 比較文学比較文化専攻博士号 (学術) 取得
2017年 4月	日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員 (～現在)
2019年 4月	東京大学大学院人文社会系研究科 教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 博士論文

『英国文化における「ロウワー・ミドル・クラス」イメージの成立と表象——ダニエル・デフォーからカズオ・イシグロまで』東京大学、2016年、305pp.

(2) 著書

『階級にとりつかれた人びと——英国ミドル・クラスの生活と意見』(中公新書2001年) 204pp.

『不機嫌なメアリー・ポピンズ——イギリス小説と映画から読む「階級」』(平凡社新書2005年) 251pp.

『へそ曲がりの大英帝国』(平凡社新書2008年) 197pp.

『自負と偏見のイギリス文化——J・オースティンの世界』(岩波新書2008年) 179pp.

『ジェイン・オースティンとイギリス文化』『NHKカルチャーラジオ 文学の世界 NHKシリーズ』(NHK出版2010年) 191pp.

『執事とメイドの裏表——イギリス文化における使用人のイメージ』(白水社2011年) 244pp.

『魅惑のヴィクトリア朝——アリスとホームズの英国文化』(NHK出版新書2016年) 221pp.

『パブリック・スクール——イギリス的紳士・淑女のつくられた』(岩波新書2016年) 215pp.

(3) 論文

『俳句と Haiku』『比較文学研究』(東大比較文学会) 第52号 (1987年) pp.108-115

‘Ishiguro’s Floating Worlds: Observations on His Vision of Japan and England’ 『東邦大学教養紀要』第22号 (1991年) pp.29-34

『漱石の『猫』と『坊っちゃん』における笑いの性質』『東邦大学教養紀要』第23号 (1992年) pp.(14)77-(23)68

‘The Mikado and the Victorian Audience’ 『英語英米文学』(中央大学英米文学会) 第33号 (1993年) pp.285-300

『イマジズムとハイク——パウンドとローウェルの「イメージ」観』『英語英米文学』(中央大学英米文学会) 第34号 (1994年) pp.131-150

『落語における演者と聴衆——八代目桂文楽の『つるつる』を読む』大澤吉博編『テキストの発見』『叢書比較文学比較文化』第6巻 (中央公論社1994年) pp.227-240

『Precious Nonsense——サヴォイ・オペラの魅力』『英語青年』第140巻第1号 (1994年4月) pp.17-19

‘W. S. Gilbert, a “National Institution”’ 『英語英米文学』(中央大学英米文学会) 第35号 (1995年) pp.445-455

『『エヴェリーナ』から『分別と多感』へ——ジェイン・オースティンとヒロイン像』中央大学人文科学研究科編『風習喜劇の変容——王政復古期からジェイン・オースティンまで』(中央大学出版部1996年) pp.195-224

『英語の女言葉——ジェンダーと敬語』川本皓嗣/大澤吉博編『翻訳の方法』(東京大学出版会1997年) pp.67-77

- ‘Guardians of Respectability: The Portrayal of the Lower Middle Class in Late Victorian Britain’ 『英語英米文学』(中央大学英米文学会) 第40号(2000年) pp.237-249
- 「今どきの若い者」考——階層社会の言葉 『文学』(岩波書店) 第1巻第3号(2000年5月) pp.26-32
- 「ギルバートとサヴォイ・オペラと「リスペクタビリティ」」中央大学人文科学研究所編『喪失と覚醒——19世紀後半から20世紀への英文学』(中央大学出版部2001年) pp.143-161
- 「^{サブurb}郊外への郷愁——ジョン・ベッチマンの「ミドルセックス」」金子雄司/大西直樹編『言葉と想像力』(開文社出版2001年) pp.183-197
- 「“Oh, Bright Young People!” ——イーヴリン・ウォーのイギリス像 『英語青年』第149巻第8号(2003年11月) pp.470-472
- 「ディナーは何時にとるべきか——食事の時間と階級意識」安達まみ/中川僚子編『<食>で読むイギリス小説——欲望の変容』(ミネルヴァ書店2004年) pp.51-72
- 「オースティンと映画 『英語青年』第152巻第2号(2006年5月) pp.26-28
- 「キーツはコックニーか——イギリス文学につきまとう「階級」 『英語青年』第153巻第8号(2007年11月) pp.470-471
- 「カズオ・イングロのナラティブと文化的アイデンティティ 『英語英米文学』(中央大学英米文学会) 第48号(2007年) pp.83-98
- 「階級——新しい「ミドル・クラス」」松岡光治編『ギッシングを通して見る後期ヴィクトリア朝の社会と文化——生誕百五十年記念』(溪水社2007年) pp.59-76
- 「階級と人生」、「現実的ファンタジー」黒岩徹/岩田託子編『イギリス』(河出書房新社2007年) pp.36-62, p.165
- 「お嬢様作家」としてのデュ・モーリア 『英語青年』第154巻第2号(2008年5月) pp.70-73
- 「カズオ・イングロの小説における「顔のない」語り手たち 『水声通信』第4巻5号(2008年11月) pp.108-115
- 「イギリスにおける「教養」の否定 『比較文学研究』(東大比較文学会) 第95号(2010年) pp.79-89
- 「階級——理想と現実」松岡光治編『ギヤスケルで読むヴィクトリア朝前半の社会と文化——生誕二百年記念』(溪水社2010年) pp.65-82
- 「イギリスにおける日本文学——ステレオタイプの功罪」日本比較文学会編『越境する言の葉——世界と出会う日本文学』(彩流社2011年) pp.103-109
- ‘Class and Leisure: The English Seaside Holiday’, *Genealogies of Curiosity and Material Desire: How Has Consumer Taste Been Constructed?* (History of Consumer Culture 2012 Conference Proceedings, 2012), pp.43-48
- 「バーバラ・ピムと「古き良き」イギリス」中央大学人文科学研究所編『第二次世界大戦後のイギリス小説——ベケットからウィンターソンまで』(中央大学出版部2012年) pp.53-72
- ‘Pride and Prejudice and the Concept of “Culture” in Japan’, *English Literature and Language*, Vol. 50 (Sophia University, February 2015), pp.47-53
- ‘That Lady They Call Clare: The Evil Stepmother in *Wives and Daughters*’, *Evil and Its Variations in the Works of Elizabeth Gaskell*, Mitsuharu Matsuoka (ed.) (Osaka Kyoiku Toshō, 2015), pp.394-408
- ‘Travel and Comic Writing: Jerome K. Jerome’s *Three Men in a Boat*’, *Moving Around: People, Things and Practices in Consumer Culture* (History of Consumer Culture 2014 Conference Proceedings, 2015), pp.159-164
- 「岩や山に比べれば——ジェイン・オースティンと「観光」 『比較文学研究』(東大比較文学会) 第103号(2017年) pp.69-83
- 「表象文化(映画)を教える——「アダプテーション」というコンセプト」日本英文学会(関東支部)編『教室の英文学』(研究社2017年) pp.123-129
- 「ジェイン・オースティン作品の映像化」日本オースティン協会編『ジェイン・オースティン研究の今——同時代のテキストも視野に入れて』(彩流社2017年) pp.267-280
- 「イギリスからハリウッドとボリウッドへ——ジェイン・オースティンの作品の翻案」小川公代/村田真一/吉村和明編『文学とアダプテーション——ヨーロッパの文化的変容』(春風社2017年) pp.92-111
- 「サヴォイ・オペラからロック・オペラへ——英米のミュージカル」澤田肇編『舞台芸術の世界を学ぶ——オペラ・バレエ・ダンス・ミュージカル・演劇・宝塚』(上智大学出版2017年) pp.70-98
- 『日の名残り』と執事という語り手 『ユリイカ』第49巻第21号(2017年12月号) pp.158-168
- 「ジェイン・オースティンのアダプテーション——成功の秘訣」中央大学人文科学研究所編『英文学と映画』(中央大学出版部, 2018年) pp.25-39

(4) 書評

- 「弥永徒史子『再生する樹木』『比較文学研究』（東大比較文学会）第55号（1989年）pp.137-139
- 「日本文体論学会編『俳句とハイク シンポジウム短詩型表現をめぐって——俳句を中心に』『比較文学』（日本比較文学会）第38号（1995年）pp.147-149
- 「平川祐弘編『世界の中のラフカディオ・ハーン』『比較文学』（日本比較文学会）第38号（1995年）pp.158-162
- 「橋口稔編『イギリス文化事典』『英語教育』第52巻第10号（2003年12月）p.90
- 「ストレイチーばりの絶妙な距離感——細谷雄一著『大英帝国の外交官』『諸君！』第37巻第9号（2005年8月）pp.234-235
- 「金山亮太『サヴォイ・オペラへの招待——サムライ、ゲイシャを生んだもの』『ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報』第34号（2011年12月）pp.33-35

(5) 翻訳書

- ゲイル・グリーン／コッペリア・カーン共編『差異のつくり方——フェミニズムと文学批評』鈴木聡／宮川雅／河合祥一郎／新井潤美訳（勁草書房1990年）344pp.
- ドナルド・キーン著『日本文学史——近代・現代編六』（中央公論社1991年）310pp.
- ドナルド・キーン著『日本文学史——近代・現代編七』（中央公論社1992年）394pp.
- ウィリアム・アリソン／ジョン・フェアリー共著『片眼鏡の反乱者』河合祥一郎／岩崎徹／新井潤美訳（教育プラン1995年）244pp.
- Hayashi Mariko, 'Professionals', *Descant*, Volume 26, Number 2 (Summer 1995), pp. 70-71. (英訳)
- テリー・イーグルトン著『美のイデオロギー』鈴木聡／藤巻明／新井潤美／後藤和彦訳（紀伊国屋書店1996年）604pp.
- グレアム・グリーン著『投書狂グレアム・グリーン』（晶文社2001年）364pp.
- 『ワーグマン素描コレクション』上・下巻、芳賀徹他編訳（岩波書店2002年）156pp、154pp.
- ジェイン・オースティン著『ジェイン・オースティンの手紙』（岩波文庫2004年）501pp.

(6) 短文寄稿・記事等

- 「騎士道を現代に伝える馬上槍試合」『English Express』第2巻第2号（朝日出版社1988年2月）p.8
- 英語コラム 'Winds of Education', *Asahi Evening News*（1996年6月～2001年3月）
- 「ボクシングの起源と英国人気質」『中央評論』第50巻第4号（1998年12月）pp.54-59
- 「『喜劇ミカド』について」ウィリアム・シュウエンク・ギルバート著『喜歌劇ミカド——十九世紀英国人がみた日本』小谷野敦訳（中央公論新社2002年）pp.3-13
- 「桂冠詩人ジョン・ベッチマンとイギリスの美——John Betjeman, *English Cities and Small Towns*」『英語青年』第148巻第6号（2002年9月）pp.380-381
- 「ジョン・ケアリ『知識人と大衆——文人インテリゲンチヤにおける高慢と偏見1880-1939年』『國文學——解釈と教材の研究』第68巻第10号（2003年）pp.53-55
- 「映画『ヴェニス商人』——悲劇強調ラドフォード演出」『しんぶん赤旗』（2005年11月6日）p.9
- 「執事は何を見たか」『ミステリマガジン』第52巻第5号（2007年5月）pp.26-29
- 「『自分だけ』の存在——執事の魅力」『出版ダイジェスト』第2138号（2008年11月11日）p.1
- 「イギリスの「復活」をもたらす二枚腰のしたたかさ」鼎談、黒岩徹／小林章夫／新井潤美、『をちこち』第26号（国際交流基金2008年12月）pp.10-21
- 「『嫌味な言葉』の訳し方——文体の選択」『中央評論』第61巻第1号（2009年5月）pp.54-59
- 「知的でないことの重要性」アラン・ベネット著『やんごとなき読者』市川恵里訳（白水社2009年）pp.153-161
- 「『古き良き（？）イギリス』へのノスタルジー」『熱風——スタジオジブリの好奇心』第7巻第6号（2009年6月）pp.10-15
- 「自分の作品に恋する男——ピグマリオン神話のさまざまなかたち」新国立劇場バレエ公演『ローラン・プティのコッペリア』プログラム（2009年6月）pp.27-29
- 「人の手紙を読むことの苦勞——『ジェイン・オースティンの手紙』」『ジェイン・オースティン研究』第3号（2009年）pp.74-77
- 「解説」『ヴィクトリア朝風刺雑誌関連資料・シリーズ第1回 ファン誌選コレクション』（エディション・シナプス2010年）
- 'Introduction', *Fun: A Collection of Books from the Victorian Weekly Magazine* [British Satirical Periodicals of the Nineteenth Century Series I], Tokyo: Edition Synapse, 2010
- 「英国階級社会と『英国王のスピーチ』」『キネマ旬報』第1577号（2011年3月）、pp.72-73

「サッチャーを巡る 12 のキーワード」『マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙』映画パンフレット (2012 年 3 月)
pp.18-19

「十五分で読むイギリス」『人文会ニュース』第 112 号 (2012 年 4 月) pp.7-15

「「自然」で力強いヒロイン ジェーン・エア」『ジェーン・エア』プレス用映画パンフレット (2012 年 5 月)

「自由な使用人たち」映画『屋根裏部屋のマリアたち』パンフレット (2012 年 7 月)

「完璧な執事」『鎌塚氏、すくい上げる』公演パンフレット (2012 年 8 月)

「ヴィクトリア朝ミドル・クラスのインド生活」『日本ヴィクトリア朝文化研究』第 10 号 (2012 年) pp.103-105

「^{オネ}乳母」と「魔法」『キネマ旬報』第 1659 号 (2014 年 4 月) pp.95-96

「カントリー・ハウスの盛衰が生んだドラマ」ロジーナ・ハリソン作、新井潤美監修、新井雅代訳『おだまり、ローズ——子爵夫人付きメイドの回想』(白水社 2014 年) pp.355-362

「解説」『英国近代郵便の成立——19 世紀文献集成』(エディション・シナプス 2015 年)

‘Introduction’, *The Foundations of the Modern Post-Office in Britain: A Collection of the Nineteenth Century Sources*, Tokyo: Edition Synapse, 2015

「リパプルー——工業都市の階級社会」松竹創業 120 周年 Willy Russell’s *Blood Brothers* 公演プログラム (2015 年 2 月)

「解説」ロジーナ・ハリソン作、新井潤美監修、新井雅代訳『わたしはこうして執事になった』(白水社 2016 年) pp.361-366

「愛すべき(?) 変人たち——イギリスの貴族社会」『ミュージカル 紳士のための愛と殺人の手引き』公演パンフレット (2017 年 4 月) pp.42-43

「カントリーハウスへようこそ!」『日本経済新聞』コラム「美の十選」(2017 年 5 月 15 日~30 日、全 10 回)

「カズオ・イングロを読む」『しんぶん赤旗』(2017 年 11 月 6 日) p.7

「目からウロコの名作再読 4——ジェイン・オースティン著『高慢と偏見』」『中央公論』第 133 巻第 4 号 (2019 年 4 月) pp.254-55

(7) 講演・学会発表・その他

‘The Future of English Haiku’ 日本比較文学会西日本大会 (徳島大学 1987 年 11 月)

‘Queer and Quaint: *The Mikado* and Japan in Late Victorian England’ 日本比較文学会第 54 回全国大会 (東北大学 1992 年 6 月)
シンポジウム『ヴァージニア・ウルフの短編小説——初期の作品を中心に』日本ヴァージニア・ウルフ協会第 12 回大会 (津田塾大学 1992 年 10 月)

講演「なぜメアリー・ポピンズは不機嫌なのか——イギリスの児童文学とミドル・クラス」日本児童文学会 (日本フラワーデザイン専門学校 2001 年 9 月)

講演「サバービアへの郷愁」中央大学英米文学会 (中央大学 2002 年 1 月)

「Philip Larkin の小説 *Jill* と ‘the displaced working-class hero’」中央大学人文科学研究所共同研究チーム「20 世紀英文学の思想と方法」(中央大学 2002 年 4 月)

シンポジウム『サヴォイ・オペラと大衆文化』日本英文学会第 76 回全国大会 (大阪大学 2004 年 5 月)

シンポジウム『境界線上の文学をめぐって——二つの文化の狭間から』日本比較文学会第 67 回全国大会 (東北学院大学 2005 年 6 月)

シンポジウム『ハリー・ポッターほか——ファンタジー文学の魅力』テキスト研究会第 5 回大会 (青山学院大学 2005 年 8 月)

講演「「中途半端な教養」の弊害——イギリスにおける教育のコンセプト」千葉大学教育学部国語教育講座特別講演会 (千葉大学 2006 年 12 月)

講演「123 年目のロングラン——元祖イギリス産ミュージカル『ミカド』のすべて」横浜市立大学エクステンション講座 (横浜市立大学 2007 年 6 月)

「カズオ・イングロのナラティブと文化的アイデンティティ」中央大学人文科学研究所共同研究チーム「20 世紀英文学の思想と方法」(中央大学 2007 年 7 月)

「舞台の外の演劇——ギヤスケルの小説における演劇性」シンポジウム『ギヤスケルと演劇的要素』日本ギヤスケル協会第 19 回大会 (中央大学 2007 年 9 月)

講演「イギリスの文化と階級」活水女子大学英語学科特別講演 (活水女子大学 2007 年 11 月)

シンポジウム『二つのジュビリー』日本ヴィクトリア朝文化研究学会第 7 回全国大会 (日本大学 2007 年 11 月)

ディスカッション「G & S 作品の魅力と国際ギルバート & サリヴァン・フェスティバル」(司会 榊原徹、ゲスト 岩崎徹、新井潤美) 第 15 回国際ギルバート & サリヴァン・フェスティバル参加記念公演「喜歌劇『コックスとボックス』と G & S 作品の魅力」(四谷区民ホール 2008 年 7 月)

「イギリスのカントリーハウス産業」消費文化史研究会第3回会合（学習院大学2008年9月）
講演「現代イギリスの階級意識——日常生活や小説、映画から見えるもの」慶應あるびよんくらぶ講演会（慶應義塾大学2009年3月）
「教養のための観光——イギリスのカントリー・ハウス産業」シンポジウム『消費社会における教養を考える——イギリス史からの視点』社会経済史学会第78回全国大会（東洋大学2009年9月）
「ジェイン・オースティンとイギリス文化」NHKカルチャーラジオ『文学の世界』（NHKラジオ第2放送2010年4月～6月）
「ジェイン・オースティンの作品と映像」シンポジウム『英文学者は映画を語るか——英文学研究と映画というメディア』日本英文学会関東支部例会（東京大学2010年5月）
「イギリスにおける「教養」の追求」シンポジウム『<教養>概念の形成と展開』日本比較文学会第72回全国大会（東京工業大学2010年6月）
「Tilneys and Trapdoors——ジェイン・オースティンと「観光」」ジェイン・オースティン研究会（関東）第5回例会（青山学院大学2010年9月）
講演「イギリスの「学校物語」と階級」専修大学文学部特別講演（専修大学2010年12月）
「サヴォイ・オペラと「イギリス的」演劇」シンポジウム『近代イギリス演劇におけるスペクタクルと音楽』日本英文学会第83回全国大会（北九州市立大学2011年5月）
講演「「学校もの」とハリー・ポッター」日本イギリス児童文学会東日本支部秋の例会（川村学園女子大学2011年10月）
講演「ジェイン・オースティンと階級社会」千葉大学英文学会第34回大会（千葉大学2011年12月）
講演「ギッシングの *The Odd Women* をとおして見る、ヴィクトリア朝の中産階級の生活と文化」ヴィクトリア朝の服飾表現にみる女性の自立と身体観に関する研究会（文化学園2012年2月）
‘Class and Leisure: The English Seaside Holiday’, History of Consumer Culture 2012 Conference, *Genealogies of Curiosity and Material Desire: How Has Consumer Taste Been Constructed?* (Gakushuin University, March 2012).
講演「イギリス文化と学校教育」川村英文学会2012年度大会（川村学園女子大学2012年9月）
‘Pride and Prejudice and the Concept of “culture” in Japan’, Panel Session: *Pride and Prejudice in Japan, Pride and Prejudice Conference* (Lucy Cavendish College, University of Cambridge, June 2013)
「19世紀イギリスにおける「ミンストレル・ショー」」日本比較文学会東京支部9月例会（日本大学2013年9月）
講演「サッチャーとイギリス文化」かまくら男女共同参画フォーラム——共に生きる未来（鎌倉生涯学習センター2013年9月）
「映像は Dumbing Down か——文学作品とアダプテーション」特別シンポジウム『英文学教育における映像の文法』日本英文学会東北支部第68回大会（東北工業大学2013年11月）
「サヴォイ・オペラと階級意識」ミドルブラウ研究会（慶應義塾大学2013年12月）
講演「Elizabeth Gaskell の *Wives and Daughters* における階級観」サウンディングズ英語英米文学会第66回研究発表会（上智大学2014年5月）
‘Travel and Comic Writing: Jerome K. Jerome’s *Three Men in a Boat*’, History of Consumer Culture 2014 Conference, *Moving Around: People, Things and Practices in Consumer Culture* (Gakushuin University, September 2014)
講演『「おだまり、ローズ——子爵夫人付きメイドの回想」刊行記念トーク』（東京堂ホール2014年9月）
講演「イギリスのカントリー・ハウス観光と文学」松山大学英語圏文化文学研究会第5回大会（松山大学2014年12月）
招待発表「Jerome K. Jerome と New Humorist」日本英文学会第87回全国大会（立正大学2015年5月）
「「階級社会」としてのイギリス」早稲田大学エクステンションセンター講義『イギリスの歴史を読み解く』第7回（早稲田大学2015年5月）
講演「アガサ・クリスティの作品を通して読むイギリスの社会と階級」日比谷図書文化館日比谷カレッジ講座（千代田区立日比谷図書文化館2016年5月）
講演「イギリス文学における使用人のイメージ」京都女子大学文学部英文学科公開講座（京都女子大学2016年5月）
ワークショップ『文学をどう教えるか』日本比較文学会第78回全国大会（東京大学2016年6月）
講演「イギリスのカントリー・ハウス観光と文学」名古屋大学英文学会第56回大会（名古屋大学2017年4月）
講演「イギリスのカントリー・ハウス」日比谷図書文化館日比谷カレッジ講座（千代田区立日比谷図書文化館2017年9月）

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

関東学院大学経済学部 (1987年4月～1990年6月)
江戸川女子短期大学 (1989年4月～1990年3月)
放送大学 (1989年4月～1990年6月)
聖心女子大学文学部 (1990年4月～1996年3月)
東京大学教養学部 (1992年4月～2004年3月、2013年10月～2014年3月)
立教大学文学部 (2007年4月～2016年3月)
学習院大学 (2008年4月～2012年3月)
東京外国語大学外国語学部 (集中講義、2008年12月～2015年9月)
京都大学大学院教育学研究科 (集中講義、2014年2月)

(2) 学会

日本比較文学学会学会誌編集実務委員 (1995年4月～2000年3月)
日本比較文学学会学会誌編集委員 (2005年4月～2009年3月)
日本比較文学学会全国大会組織委員 (2009年6月～2011年6月)
日本比較文学学会学会賞選考委員 (2011年6月～2013年6月)
日本比較文学学会学会誌編集委員長 (2013年6月～2015年6月)
日本比較文学学会東京支部幹事 (2013年6月～2017年6月)
日本比較文学学会国際活動委員会委員長 (2015年6月～2017年6月)
日本英文学会関東支部学会誌編集委員 (2008年4月～2010年3月)
日本英文学会関東支部学会誌副編集委員長 (2008年4月～2009年3月)
日本英文学会学会誌編集委員 (2009年4月～2012年3月)
日本英文学会関東支部理事 (2011年4月～2017年3月)
日本ヴィクトリア朝文化研究学会学会誌編集委員 (2009年4月～2016年3月)
日本オーステイン協会学会誌編集委員 (2015年4月～現在)

(3) 行政

司法試験(司法試験予備試験) 考査委員 (2001年10月～現在)